

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年11月10日

## 【認知症対応型共同生活介護用】

### 【評価実施概要】

事業所番号	2772401259
法人名	医療法人 美杉会
事業所名	グループホーム美杉
所在地	枚方市西招提町2166 (電話) 072-836-6080

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 10月 21日

### 【情報提供票より】(平成 21年 10月 6日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.0人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	1階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,750円	その他の経費(月額)	25,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 2,000円 / 月額60,000円		

#### (4) 利用者の概要 (平成 21年 10月 6日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.6歳	最低	81歳	最高	103歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人美杉会 佐藤病院、藤田歯科医院、藤川歯科医院
---------	----------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営する2ユニットのグループホームで、併設に在宅サービス、通所デイサービス、介護老人保健施設等があります。昨年4月からグループホーム内の空き部屋を利用し、短期利用型共同生活介護の受け入れも始めました。ゆったりと今までの生活リズムをくずさない介護を心がけています。ホームは建物の1、2階にあり、同法人の介護老人保健施設1階と渡り廊下で繋がっており、設備の共用や職員の相互援助により、きめ細かいサービスを提供できるよう努めています。施設の内庭は広く、雨天の時に様々に運動や散歩、花いじりなどができる環境です。また、同法人の病院とも密接に連携できるようにしています。法人全体で「接遇委員会チェックシート」を用い、全ての職員が同じ気持ちを持って利用者に接することができるよう、各部署間で月1回話し合っています。今年度は「ホットなおもてなし、ほっとできる美杉」をスローガンに掲げています。事業所は職員の育成に力を注ぎ、職員も意欲的で生き生きと業務をこなしています。職員の前向きな姿勢はホームの雰囲気にも反映し、利用者が安心して生活できる環境になっています。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 外部評価結果については、家族や職員に報告し改善について話し合っています。災害対策については、グループホーム内にも備蓄を保管できるように改善しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、職員会議で意見を聞き作成しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加を得て、2ヶ月に1回開催しています。利用者の状況説明や行事案内を報告し、民生委員の意見で施設に地域の方を招いて交流を図る等の案がありました。具体的にデイサービスの場所を開放し、地域の方に認知症の勉強会を開いたらとの提案があり検討中です。また、事故報告書についても市に報告し、介護サービスの疑問点等についても詳しく尋ねています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年間4回「ゆうゆう」新聞を発行して、定期的に利用者の様子や行事案内、新人職員の紹介、地域との交流の様子を伝えています。また、利用者の状態の変化があった時は電話で伝えています。家族の面会時には、日常生活の様子や健康状態、必要な情報をできるだけ伝えて、馴染みの関係作りに努めています。金銭管理については残高の報告を行い、家族の確認を得ています。また、家族との連絡事項については、相互の伝えた内容や返答内容を記載し、職員間で共有しています。玄関には意見箱を設置しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議に出席の民生委員を通じて、地域行事へのお誘いがあります。その際には行事案内と駐車場スペースを確保してもらい、場所の確保や椅子の用意もしてもらっています。今後、地域の方々のための認知症の勉強会や、介護教室の開催を検討しています。
重点項目④	

## 2. 調 査 報 告 書

(        部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの思いを理解・尊重し、大切にしていきます」「利用者さんが安心して生活できる雰囲気・環境作りに努めます」「地域の中でその人らしい生活が支援できるように、地域とのつながりを大切にしていきます」を理念として掲げ、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常々会議等で話し合わせ、実践に向けて取り組んでいます。また年間のスローガンや3ヶ月毎の目標を定め、挨拶強化月間、服装・身だしなみ強化月間などのほか、言葉遣い、環境整備等にも重点的に取り組み、より良い処遇を目指し頑張っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	運営推進会議に出席の民生委員を通じて、地域行事へのお誘いがあります。その際には行き先案内と、駐車場スペースや座る場所の確保、車椅子の用意もしてもらっています。今年はインフルエンザの影響で地区運動会には参加できませんでした。今後、地域住民に向けて認知症の勉強会や、介護教室の開催を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員会議で意見を聞き作成しています。外部評価の結果については、家族や職員に報告して改善について話しています。前回の外部評価で示された災害対策の件については、総合施設内に保管されていた備蓄について、グループホーム内に備蓄を保管できるように改善しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加を得て、2ヶ月に1回開催しています。利用者の状況説明や季節行事案内の報告があり、民生委員の意見で施設に地域の方を招いて交流を持つ案がありました。具体的にデイサービスの場所を開放し、地域住民に向けて認知症の勉強会を開いたらどうかとの提案があり、実現に向けて検討中です。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席があり、様々な質問や問題点について話しています。また、事故報告書についても市に報告し、介護サービスの疑問点等についても詳しく尋ねています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年間4回「ゆうゆう」新聞を発行して、定期的に利用者の様子や行事案内、新人職員の紹介、地域との交流の様子を掲載し、家族に送付しています。また、利用者一人ひとりの健康状態や生活状況に変化があれば、その都度家族に連絡し、報告内容や報告に関する家族の返答を記録しています。金銭管理については残高の報告を行い、家族の確認を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は、必要な情報をできるだけ伝えて、馴染みの関係作りに努めています。また、運営推進会議にも出席してもらい意見を得ています。ホームから連絡事項がある時は家族に伝えて返答内容を記録しています。家族から連絡があった時も書面に残し、グループホームの返答の内容も記録して職員も共有しています。玄関には意見箱を設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にして、今年は退職者もなく、転入された方のみとなっており、利用者や家族の安心へつながっています。認知症の利用者にとって馴染みの関係は日常生活の安定につながるため、今後も職員の異動や離職が少なくなるよう努めることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	併設する老人保健施設の年間研修計画に沿って、ホーム職員も毎月参加しています。主に法人内研修に参加しています。また職員の自己啓発を支援するため、外部研修の情報を掲示し参加しています。外部研修の参加者は資料を提示し、職員へ伝達しています。研修には認知症、感染症対策、緊急時対応などが含まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの企画で地域内のグループホームが集まり、情報交換を実施しています。近隣のグループホームとは月1回交流会を開催し、お互いのサービス向上に向けた取り組みをしています。現在は、主に管理者間の交流や相互訪問になっていますが、今後は職員間の交流の場として広げていけるよう検討中です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望のある方は、1ヶ月程体験入居をしてホームに馴染めるかどうかを検討する機会があります。施設や病院から入居する場合は職員が面接に出向いています。また、本人が家族と見学に来訪し、詳細を伝え納得して入居できるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時に本人や家族から情報を聞き取り、その時々で得た情報を元に利用者の好みを考えたり聞き出したりしています。利用者は、重いものを運んでいるとドアを開けてくれたり、屋上で洗濯を干しながらおしゃべりをして楽しんだり、料理が得意な方には野菜の切り方や味付けを教わったり、利用者から知恵をいただく場面があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族の意向を取り入れて、支援に取り組んでいます。家族には、入居時と年1回、書面にて意向確認を行っています。利用者からは、日常の関わりの中で話を聞く機会を持ち、表情や仕草から、何を望んでいるのかを把握するよう努めています。要望があれば、業務の見直しも含め検討するなど、その都度職員間で話し合っています。思いを伝えにくい利用者については、入居前に本人の趣味や得意だったことを家族から聞き、利用者本位のケアの実践に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人や家族の意向を聞き、情報を基に会議を開催して介護計画を作成しています。利用者の日常生活で望むこと、得意なことを取り入れられるように検討しています。作成した介護計画は、家族から同意の署名捺印を得ています。また介護計画書は回覧し、毎日の業務日誌や利用者一人ひとりのケース記録用紙へ具体的に記録して、計画に沿った支援ができるよう取り組んでいます。今後は、日常生活で聞き取った利用者の希望や意向を追加して記入できるよう検討中です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月毎に、また状態の変化があった場合にはその都度、見直しを行っています。家族にも1年に1回、定期的に書面にて意向の確認をしています。毎日の申し送りで見つけたことを話し合い、毎月1回のモニタリングと会議で、状況変化がわかりやすい様式を使用して、介護計画の見直しを行っています。職員間で検討し、また医療関係者からも情報収集をしています。見直しの結果、計画を変更した箇所を蛍光ペンで色づけするなど、変更内容を職員間で共有し、活用するための工夫を行っています。今後、同席が可能な家族については、一緒に計画を作成する取り組みを検討中です。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き部屋を利用し、短期利用型共同生活介護を活用して、利用者が新しい環境に早く慣れるように支援を行うとともに、地域に住む認知症の方を、短期間受け入れ可能な社会資源として、地域に貢献しています。また、医療連携体制や同法人老人保健施設が隣接していることを活かし、医師や看護師、リハビリの専門家などと連携し、健康管理や行事の交流などの取り組みをしています。今後は、高齢者福祉分野や認知症に関する専門の福祉事業所として、認知症理解や福祉サービスの利用方法について、啓発活動や相談援助を通して地域へ貢献していくことを検討しています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院で月2回の往診を受けています。また、かかりつけ医を継続して受診する方は家族が付き添い通院しています。その際にはホームでの状態を情報提供しています。職員が通院の支援も行うこともあります。夜間や緊急時についても、かかりつけ医と連携ができる体制を整えています。受診結果については、書面にてかかりつけ医師からの報告があり、内容や留意点は、業務日誌や連絡ノートにて、情報の共有をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前に「看取り同意書」で家族の意向を書面で確認しています。実際に重度化した場合には、家族に対して状況を説明したうえで再度意向を確認しています。過去には、看取りを希望した方を支援した事例があります。医療の専門家と連携を図り、具体的な支援方法を検討するとともに、看取りについての勉強会を行い、業務の体制や内容についての見直しも行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から利用者一人ひとりを尊重した支援をしています。個人情報保護規程が定められており、研修や勉強会、毎月のケースカンファレンス、職員会議を通して学ぶ機会をもち、周知を図っています。また、日頃の声かけや接し方についても、申し送り時にお互いの情報交換をして学びあっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中には、利用者に呼びかけをして体操を行っています。ホームが一律に日課を設けることはなく、職員は日頃から、利用者を尊重して希望に沿えることを心がけており、利用者一人ひとりのペースに合わせながら支援するように接しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は、併施設設で調理したものを利用者と共に盛りつけをしています。朝食は、ホームで調理しています。また、日曜日と祝日は、材料を併施設設で準備し、調理は利用者と共に行います。野菜を刻む方、食事の盛りつけをする方、後始末や洗い物をする方など、利用者と一緒に行います。食事は利用者一人ひとりに合わせて食べやすいよう細かく刻んだり、とろみをつけたりする等の工夫をしています。職員と利用者が歓談しながら一緒に食べ、介助が必要な利用者に対しては、さりげなく支援を行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの意向をきき、週3回を基本として入浴しています。入浴チェック表に記録して状況を確認し、入浴を好まない利用者や体調が優れない利用者については、状況に合わせて清拭や足浴を行います。今後は、利用者の希望にあわせて、夜間でも入浴できるような体制を整える取り組みを検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオルや洗濯物をたたむ方、食事の盛りつけ準備や後片づけを一緒に行う方、庭の花壇の水やりをする方など、利用者一人ひとりが役割をもっています。週3回水の入ったペットボトルを使用した体操をすることを張り合いとしている方もいます。また、毎日朝刊と夕刊を取りに行く役割の利用者は、ほかの利用者から「ありがとう」と言われることが喜びになっています。一人ひとりが役割や張り合いを持って生活できるように、利用者が関心を示したことや家族から得た情報を記録し、支援に活かすように取り組んでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に2回、職員と一緒に近所のスーパーへ食材やおやつの買い物に出かけるほか、希望する利用者には、毎日、近くの公園へ散歩に出かけています。雨天でも、天井のある広い庭があり、外気に触れ、季節を感じています。また、車に乗って花見や菖蒲園に出かけるなど、季節感を味わう行事や外食ツアーもあります。また、個人的な買い物については、近くのスーパーに出かけます。家族と一緒に初詣やお墓参りに出かける支援も行っています。今後は、教会へ行きたいなど、利用者一人ひとりの希望に対して、個別外出に重点を置いた取り組みを検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室には鍵はかかっていません。玄関を出ると、天井のある広い庭になっており、いつでも自由に出ることができます。また、職員の声かけもやさしく、利用者一人ひとりを尊重することを心がけた声かけをしていました。職員に対しては、マニュアルが作成してあり、法人の研修会で身体拘束について勉強をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成、併設する施設と合同で、年2回避難訓練を行っています。緊急時には非常口も開くようになっています。非常時に備えた備蓄品は、併設する施設で管理しているほか、グループホーム内にも水・レトルト御飯・缶詰が準備してあります。今後は、非常災害時における相互の協力体制を作るなど、地域への働きかけについて話し合うことを検討しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、併設する施設の管理栄養士に相談しており、1日の食事量や水分量をチェックし記録しています。カロリー制限のある利用者や食事が飲み込みにくい利用者に対しては、食事形態や量を工夫しています。水分についても、お茶をゼリー状にするなど、摂取しやすくする工夫を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファや畳敷きの台があり、洗濯物やタオルがたたみやすい高さに工夫しています。壁には、利用者が作成した折り紙や手作りカレンダー、季節感のある花や絵を飾っています。キッチンオープンになっており、利用者と一緒に食事の準備や調理ができるようになっています。玄関から続く中庭には季節の花が植えられており、その前にベンチを置き、みんなで落ち着いて寛げるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由です。出窓があり、家族と一緒に写した写真や利用者が若い頃の写真、若い頃の書道作品、家族が作成し持参した手芸品などを飾っています。各居室の出入り口には、行事のときに家族と一緒に写した写真が貼ってあり、自室としてわかりやすいように工夫しています。また、家族と話し合い、利用者の状況に合わせて持ち込みを最小限にし、落ち着ける居室になるよう取り組んでいます。		